

令和5年度（2023年）自己評価表

日本工学院八王子専門学校

1. 学校の教育目標

本校は、社会の要求に即応した工科技術専門課程、情報科学専門課程、芸術専門課程、医療専門課程を設け、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する」というミッションのもと、「建学の精神」「教育方針」「教育目的」の三つを掲げ技術者を育成している。2007年度より、それまでの長い歴史の中で培ってきた「総合性」を強化しつつ、各分野での「専門性」を追求する教育環境を実現するために、それまでの学科を再編成したカレッジ制を導入し、分野ごとに教育内容を常に見直し、改善して、時代の求める真のスペシャリストを育成している。

現在、クリエイターズカレッジ、デザインカレッジ、ミュージックカレッジ、ITカレッジ、テクノロジーカレッジ、スポーツ・医療カレッジの6つのカレッジを設置している。

「建学の精神」

高度化する現代社会の変化につねに即応し、創意工夫を重んじ、独立自尊の道を学び、開拓者精神を涵養することにより、各分野での活動を通じ、広く社会に貢献する人格の形成を重点とする。

「教育方針」

毎日の授業（講義、実習、実験）を重視する専門教科の修得を通じ、人格を陶冶する。工学・芸術・医療それぞれの分野における開拓者精神を培う。

「教育目的」

つねに新鮮な人材の要望される現代社会に対応し、専門の学理と技術を身につけ、職業人として自負と実力を蓄え、もって社会の中堅たり得る人材を育成する。

育成人材像

2011年度より新たな取り組みとして、学生たちの就職力を高めるための「日本工学院就勝宣言」をスタートし、各分野の専門能力に加え、社会が求める人間力を養成できるカリキュラムを構築するとともに、学生の就職・デビュー活動を万全に支援するプログラムを豊富に用意し、これまで蓄積してきた人材育成教育をより強力にし、時代が求める「専門力」と「人間力」を併せもつ真のプロフェッショナルを育成する。

また、各自の能力ならびに特性に応じて基礎理論から応用技術に至るまで、最も効果的に教育し、あわせて社会人として必要な教養を身につけ、勤労と責任を重んずる、心身ともに健全な技術者の育成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「第一志望で選ばれる学校になる」ために以下の①～⑥の6項目に取り組む。

- ① 「若きつくりびと」教育の徹底（つくる、作る、造る、創る）
- ② One 日本工学院の推進（地域、学校、カレッジ、学科を超えたコラボレーション）
- ③ コミュニケーションの活性化（情報の外部への発信、内部での情報共有）
- ④ 教育設計図2.0による教育質保証（カリキュラム、教育設計図、シラバス、学びの設計図等）
- ⑤ エンパワーメント型組織へ（学習する組織、心理的安全性の確保）
- ⑥ 学生中心主義（学生を知る、学生の意欲を引き出す）

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

①課題

1. 常に時代のニーズに合った新学科の検討。
2. 社会のニーズに対応した実践的な職業教育に積極的に取り組む。

②今後の改善方策

1. 技術革新が著しい分野の人材育成に取り組み、時代のニーズに即応できるよう、各カレッジにおいて、育成人材像等を常に検討。
2. 育成人材像、教育指標を見直し、社会のニーズに対応した実践的な職業教育に積極的に取り組む。

③特記事項

- ・グローバル時代に即応出来る人材が求められる今日、なお一層の教育の改善を行い八王子キャンパスは2013年度に最先端の研究ができる「先端3D製作室(メイカーズラボ)」「スマートハウス実習棟」を建設した。
また、2014年には学生生活満足度向上のため、コピー機や無料公衆無線LAN、デジタルサイネージ等を設置した学生が自由に利用できるスペース「ドーナツラウンジ」を整備した。2020年度にAI教育に特化した「AI実践センター」を新設した。2021年度には、建築学科および建築設計科の新実習施設「アーキテクト・ビルダースタジオ」を新設した。
- ・2011年度より新たな取り組みとして、学生たちの就職力を高めるための「日本工学院就勝宣言」をスタートし、各分野の専門能力に加え、社会が求める人間力を養成できるカリキュラムを構築し、各分野で活躍できる「専門力」と「人間力」を併せもつ真のプロフェッショナルを育成している。
- ・若きつくりびと
「理想的教育は理想的環境にあり」の理念に基づき、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する」ことをミッションとする日本工学院ならではの本格的な学習環境で、自由にモノ、コト、場、喜びなどを作る(創る)本校学生のことである。日本工学院ではすべての学科で「つくる」ことを教育の柱に据え、新しいモノやコトなどをつくり出せる人材「若きつくりびと」育成のため、75年の歴史が培ってきた人材育成のノウハウを生かし、理想の教育環境を実現するためのさまざまな取り組みを行なっている。

(2) 学校運営

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4	③	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	②	1

①課題

1. 業界や地域社会に対するコンプライアンスについての取り組みを強化する。
2. 自己点検自己評価等について情報公開を継続する。

②今後の改善方策

1. 効率的な人材活用、情報共有及び提供する教育内容の均衡が図られるよう取り組みを進めたい。
2. 業界や地域社会に対するコンプライアンスについては、法令・社会規範・倫理を遵守することがこれまで以上に重視されるので、学生の行動指針の策定とその遵守のための内部統制システムの構築に取り組み、学生へきちんと説明し協力を得る。
3. 専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、自己点検・自己評価を実施し、教育活動の質保証および向上に取り組んでいく。
4. 2017年4月より、専門学校の教員の労働環境改善を目的として、「1年単位の変形労働時間制」を導入した。
5. 2019年度より職員の勤務管理に関するシステムを導入し、法令遵守の取り組みを図っている。

③特記事項

- ・学校運営を行う上で不可欠である教育目的、教育目標を実現するための単年度計画および中期計画を策定して、年度始めの合同部長会において副校長が学校の「重点方針と課題（目標を含む）」を発表して、法人全体に周知している。
- ・「高等教育の修学支援新制度」の認定校。

(3) 教育活動

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等と連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実集等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質行動のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

①課題

1. 成績評価、単位認定、進級・卒業判定等の基準について、明確な判定基準を定めているが、判定会議等はカレッジ(学科)に一任し、報告書を提出してもらっている。
2. 教職員能力開発のための研修等については、月に一度「全教職員研修会」を開催している。
3. シラバスは整備しているが、表記内容の統一化が必要。

②今後の改善方策

1. 成績評価、単位認定、進級・卒業判定等の明確な基準等は定めておりますが、カレッジ(学科)に一任している部分があるので、客観性・統一性を確保し取り組んでいく必要がある。
2. 研修等については、一昨年・昨年とコロナ禍においてほぼ実施できていない、また外部での研修等にもあまり参加できていない状況。今後、コロナが収束していけば、対面での研修も徐々に増やしていき、教職員の能力開発を更に推進していく。
3. シラバスの表記内容の統一化及び客観的達成目標(ルーブリックの活用)の追加などの改善を図っている。

③特記事項

- ・教育設計図の導入と検証。
- ・「教育の志」を定めた。
日本工学院の教職員全員が共有する「心のなかにある価値観」として「教育の志」を定めた。項目は、入学、教育、教職員、進路、社会貢献の5項目について定義されている。
- ・授業評価アンケートの実施と質問項目の検討。
※授業評価アンケートについては教職員に対してフィードバック面談を採り入れ、授業改善を行っている。また、学生からの声に迅速に対応するため現行のマークシート方式から、2020年度よりWebでのアンケートに切り替えた。更に2023年度よりLMSを活用したアンケートに移行予定。
- ・学生生活調査の実施。
- ・就職力を向上させるための講座「チャレンジプログラム」の一環として、専門力、人間力、創造力を身につけるための「あすなろ講座」と「若きつくりびとゼミ」、火星移住計画「Mars Project」などを定期的実施し、様々な視点からキャリア教育を、学生のニーズに合わせた形で実施している。
- ・大学編入を目的とした「大学編入対策講座」では、数学や英語、物理学などの基礎教養科目を中心に、単位互換科目として開講している。
- ・留学生に対しては日本語講座とビジネスマナー講座を通年開設している。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上がはかられているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

①課題

1. 校友会（日本工学院八王子専門学校卒業生組織）としての卒業生の管理は、組織としては規定等もあり確立されているが、巨大な組織である故に会員へのサービス充実に課題がある。
2. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているとは言えない。

②今後の改善方策

1. 校友会を中心とした活動を積極的に戦略的に支援することで、全体的な把握に努めることであり、校友会との連携を更に密にすることを検討していく。
2. 卒業生の入社後の状況を把握するため、キャリアサポートセンターと学科が連携して会社訪問に取り組むことによってキャリア形成に必要な情報を入手し、就職率を向上させるために専属職員と連携した継続対応により改善に努める。
一昨年・昨年とコロナ禍で会社訪問等が難しい状況の中での対応を模索・検討中。

③特記事項

- ・資格取得等の体制として放課後の「チャレンジプログラム」の更なる支援
- ・2022年度の進路決定率（進学者含む）：95.9%（2023年5月1日現在）
（進学者を含まず）：95.5%
- ・2022年度の退学率：4.3%
- ・カレッジ別退学率：クリエイターズ 3.7%
デザイン 3.3%
ミュージック 5.2%
IT 4.9%
テクノロジー 4.2%
スポーツ・医療 5.1%
- ・2023年度の進路決定率（進学者含む）：97.5%（2024年5月1日現在）
（進学者を含まず）：97.3%
- ・2023年度の退学率：4.6%
- ・カレッジ別退学率：クリエイターズ 5.3%
デザイン 3.6%
ミュージック 6.9%
IT 4.6%
テクノロジー 3.1%
スポーツ・医療 6.2%

(5) 学生支援

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

①課題

1. 保護者との連携については、年2回の学内保護者懇談会（進級期・卒業期）を実施して、学生の成績や学校での様子等について面談をしている。また年2回担任のコメントが記載されている成績表を送付している。遠方からの参加者が少ないため、2019年度に学外保護者説明会（仙台、長野、水戸、甲府、静岡）を実施。2020、2021年度はコロナ禍で中止となったが、2023年度は上記5都市で実施した。
2. 課外活動に対する支援体制は部活動とボランティア活動であるが、どちらも指導する教員の数に限られているので、万全とは言えない状況である。

②今後の改善方策

1. 保護者の意見等を学校の運営の中に取り込む計画中である。また、インターネットのシステムを利用することによって、保護者の方と今まで以上に細やかな連携を取るよう努める。また、2024年度に向けて、教育の質保証と見える化を踏まえたe-portfolioシステムの導入を進めている。e-portfolioにより、学生の成長過程が見える化し、学生自身の振り返りの他、教職員、保護者等と情報共有を図り、一人ひとりにマッチした学習計画と指導を実践する。
2. 卒業生である地方の校友会と積極的に連携を取り、部活動やボランティア活動を推進したい。

③特記事項

- ・地域との連携。
- ・校友会の支部組織の活性化。
- ・社会に貢献する人材のさらなる育成を目的に、学ぶ意欲があり優秀な学生や、経済的理由で就学が困難な学生に対し「若きつくりびと奨学金」として、奨学金の給付を行っている。また、その採用条件によっては文部科学省「私立専修学校修学支援実証研究事業」の対象となり、さらに国からの補助を受けられる。
- ・2023年「若きつくりびと育成奨学金 優秀学生校長賞」の設置と奨学金の給付
2027年に創立80周年を迎える片柳学園では記念事業として「若きつくりびと」を育成するための奨学金を設立した。この奨学金は在校生を対象に素晴らしい学習成果を収めた学生に、優秀学生校長賞として10万円の奨学金を給付した。

(6) 教育環境

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実施施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

①課題

1. 施設・設備等は、コロナ禍においてオンライン授業を実施するうえで不十分なところがあったが、Wi-Fi 環境の整備を行った。

②今後の改善方策

1. オンライン授業のためのネットワーク環境・ICT 環境の増強が必要不可欠、またオンライン授業への対応を図るべく全教室 Wi-Fi 化工事を年次計画で進行中である（建物毎に計画を進めている）

③特記事項

- ・印刷と同じ技術で立体を作る「3Dプリンター」など最新鋭のプロ機器を導入した『先端3D製作室（メイカーズラボ）』が完成。3次元の立体物をビデオのように撮影することで、スキャンしたデータを3Dデジタルモデルとしてパソコン内に取り込む装置である「3Dスキャナー」や「CNC ルーター」、「5軸マシニングセンタ」、「3次元力覚入出力デバイス」など次世代型機械工作室を活用した高度な作品制作ができる施設を導入した。
- ・エネルギーを有効に活用する次世代型省エネ住宅「スマートハウス実習棟」が完成。株式会社ヤマダ・エスバイエルホームとの産学連携により、三菱電機製のソーラーパネルや各種スマート家電、蓄電池など最新のスマート技術を結集し、エネルギー、エコ・スマート技術の専門家を育成する施設を導入した。
- ・先進的な技術やアイデアを詰め込んで自由な発想力と豊かな感性を育む「AI実践センター」を導入した。
- ・建築学科(四年制)および建築設計科の新実習施設「アーキテクトビルダー・スタジオ (AB Studio)」が完成。建築系学科のエグゼクティブアドバイザーを務める建築家 渡辺真理氏監修のもと、学生の創作意欲を高める2つの実習スタジオ(A・B)のほか、学生作品展示コーナーや建築関連の書籍を豊富に揃えた書棚も完備。次世代の建築デザイン教育を見据えた、理想的な学習環境となっている。
- ・遠隔授業に対する学内のインフラ整備は google 社 G スイートが運用4年目を迎え、学内でも浸透が進み今後さらなる活用が期待される。教職員間の情報共有と業務効率の向上を目的として10月より有償版の Slack も新規導入した。
- ・学内 Wi-Fi 環境の整備については、半導体供給不足、ウクライナ戦争の影響により整備が遅れていたが、2023年度4月にキャンパス授業教室内の Wi-Fi 化が完了した。
- ・令和4年5月より新たに日本工学院八王子専門学校(八王子校)の専用サイトである、Link 日本工学院 (<https://link-hac.neec.ac.jp/login>) を開設し、学生、保護者にタイムリーに学園情報(掲示板、カレンダー)を伝達する専用サイトを開設した。
- ・所有する校舎敷地面積 381,100 m²

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか。	④ 3 2 1
・学生募集活動は、適正に行われているか。	④ 3 2 1
・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。	④ 3 2 1
・学生納付金は妥当なものとなっているか。	④ 3 2 1

①課題

1. 学生の募集と受け入れについては、適正な活動を行っている。昨年度はコロナ禍での募集で厳しい状況だった。
2. 学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基礎として、学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している。

②今後の改善方策

1. 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会が定めた募集開始時期や募集内容などを遵守し、時代のニーズに即応した高度な職業人の育成を念頭に、保護者向けの冊子を作成し幅広く募集活動を展開している。しかし、一昨年度に続き、昨年度もコロナ禍の影響もあり十分な活動が出来なかったが、オンライン説明会等工夫しながら活動をした。
2. 学納金は、年2回、前期と後期に分けて納入することになっている。学納金の請求については、前期分は3月初旬、後期分は9月初旬に学費支払者宛に郵送し、それぞれ月末までに振込みをするように依頼している
3. 2018 年度以降の自然災害等で被災された入学者に対して、被災状況に応じ、入学金および学費の減免、学生寮への優遇入寮、選考料の免除措置を行っている。
4. 厚生労働省主管の「教育訓練給付制度」を積極的に活用し、学び直しを希望する入学希望者に対して支援を行っていく。

③特記事項

- ・入学辞退者に関する授業料等の取扱いについては、文部科学省通知「18 文科高第536 号」に準じ適切に行っている。
- ・片柳学園給付型奨学金を若きつくりびと奨学金へ名称変更（内容等は変更なし）。
- ・本校は厚生労働省の実施する「教育訓練給付制度」（専門実践教育訓練給付金および教育訓練支援給付金）について、7 学科 8 講座において指定を受けている。これは、一定期間以上 雇用保険の被保険者であった者が、厚生労働大臣の指定する講座を受講し修了した場合、収めた 授業料等の一部が支給される制度であり、社会人の再チャレンジの選択肢として支援の体制を整えている。
- ・オンラインを活用した入学試験を導入して受験生の負担軽減に努めている。
具体的にはオンラインエントリー（総合型選抜入試）、オンライン面接（総合型選抜、学校推薦型、一般選抜）を導入。遠方居住者の交通費や体調不良者のオンライン面接切り替えなど受験生への負担を軽減している。現在はオンライン出願を導入するべく学内で検討中である。

(8) 財務

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

1. 本学園は、2021 年度より主に専門学校の入学者数の減少が見られるものの、現時点での学園全体の収支状況においては主要な財務比率が全国平均を上回りバランスが取れている。

18 歳人口が減少する中、今後も継続して財務基盤が安定するよう、学園運営に必要な在籍者数を維持する取り組みを続ける。

②今後の改善方策

1. 本学園の理念は、「理想的学びは理想的環境にあり」である。この理念を基に、教育環境と教育施設設備の整備、並びにこれを活用して教育を施す質の良い教員の確保を実践している。

本学園は、将来ともこの理念を第一の基本に据えて、安定した財務基盤を確立させ、教育の質を保証することで安定的な学生数の確保を目指す。

「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する」ことをミッションとする本校において、自由にモノ、コト、場、健康、喜びなどを作る（創る）「若きつくりびと」の育成のために、理想の教育環境整備を進め、第一志望で選ばれる学校を目指す。

③特記事項

- ・本学園では、財務情報の公開体制を整備し、公開を実行するための規程を定め、適法な公開を実施している。公開に際しても、学校関係者以外の方にもわかりやすい内容とするため、事業報告書の記載内容の充実を図っている。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

①課題

1. 情報システムの個人情報を扱う「業務系システム」は、学生が実習などに利用する「教育システム」とは完全に分離することで高いセキュリティを確保している。

②今後の改善方策

1. 認証と監査ログの仕組みを持つ高セキュリティの業務ネットワークを構成し、そのネットワーク内に「Campusmate-J」と呼ばれる業務システムを構築している。

③特記事項

- ・「学校法人片柳学園における個人情報の保護に関する規程」(2005年3月1日施行)
- ・「学校法人片柳学園 ハラスメントの防止等に関する規定」(2022年8月1日施行)
- ・現在ホームページ、ブログ、Facebook、LINEについては「インターネットメディアガイドライン」によりカバーしている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

①課題

1. 本校の教育環境を活かし、施設・設備の貸し出しや、各分野での教育成果において、地域や社会に還元している。
2. コロナ禍におけるボランティアのあり方を検討する必要がある。

②今後の改善方策

1. 産官学連携における事業、在学生によるボランティアはもとより、本校が力を入れている「ものづくり」の楽しさを知ってもらう機会を提供するなど、密接に地域と交流し、それは日常的なものとなっている。本校の教育資源を十分活用した社会貢献・地域貢献を行っていると感じている。

③特記事項

- ・ 八王子市との包括連携協定に基づく連携の充実
- ・ 八王子市伝統「八王子まつり」「踊れ！西八夏まつり」公式ポスターデザイン協力
- ・ 株式会社社内ファニチャーアクセスとの連携課題で、OKAY 八王子店展示家具のインテリアコーディネート
- ・ 特別講義シリーズ「八王子学～ものづくりの道～」を開講
- ・ 小学生対象「ものづくり体験&しごと発見教室」
- ・ 八王子産パッションフルーツの名産化の提案
- ・ 検定試験会場や地域イベント、テレビドラマ、CM撮影などキャンパスの施設貸出
- ・ 地域活性化イベントにオフィシャルサポートスタッフとして参加
- ・ 八王子市私立保育園協会連携校
- ・ 地域の小学校にてスポーツ指導
- ・ JPPF（NPO 法人日本パラ・パワーリフティング連盟）と連携のもと「第 22 回全日本パラ・パワーリフティング国際招待選手権大会」の開催協力
- ・ 高専連携協定締結（昭和第一学園高等学校・都立武蔵村山高校・八王子実践高等学校・県立甲府工業高等学校・都立府中工科高校・都立府中工科高校）

以上